

## 精神疾患を抱える人を支援する NPO 法人「円」を訪問

日向みさ子

4月10日、立川市にあるNPO法人多摩在宅支援センター円で理事長のお話をきいてきました。円は精神疾患を抱える人たちが地域で暮らせるように、病院と福祉をつなぐ仕事をしたいと2005年にたった3人で始まりました。アウトリーチ（訪問支援）を基本に当事者に必要なサポートを一つひとつ事業として形にしてきた結果、現在では3つの訪問看護ステーションと2つのグループホーム、相談支援事業所などの運営のほか、東京都の退院促進コーディネーターなどの委託事業と幅広い展開をしています。

印象的だったのは、「制度を基本ではなくその人が地域で生活するために何が必要かを基本に考える」「当事者だけでなく世帯まるごと支援しないと解決しない」という姿勢でした。事業が継続できるように経営も大事にしていることも含め、福祉充実のために欠かせない視点です。今後の政策提案のために実りある訪問でした。



円が取り組んだPCG（親子グループ）活動の報告書「精神疾患を持つ子育て世帯へのサポート事業～精神疾患をもつ育児困難な親子のグループケア」の冊子。虐待防止など子どもの幸せのためにも母親当事者のためにも、興味深い取り組みである。

円のパンフレット→



## リヒテルズ直子さん講演会 安心・共生・幸せ～オランダ型成熟市民社会に学ぶ

岩本ひろ子

子どもたちの幸福度が世界一と言われているオランダは、教育の自由が保障され、一人ひとり個に応じた教育が行われています。またワークシェアリングの制度が確立されており、子どもとの豊かな関わりも保障されています。日本では民主主義を教える学校の制度そのものが未だ効率重視の開発途上国モデルのままで民主的ではないとのリヒテルズさんの指摘を今後の大きな課題として重く受け止めました。

今回の講演会に参加し改めて自分の頭で考え判断



左から、岩本、リヒテルズ直子さん、平野、日向

できる成熟した市民を育てるためのシチズンシップ教育の必要性を痛感、地域でできることから発信していきたいと思います。

## 第5回原発どうする！たまウォークに参加

平野ひろみ

3.11震災の後5月には、小平でも「原発にさよならを/こだいらの会」を発足して、ゆっくりウォークや映画上映を行ったり、放射能の学習会の参加などを重ねてきました。



4月13日は、国立で開催された「第5回たまウォーク」に参加しました。震災後2年以上経っても、いまだに福島原発の事故原因は究明されておらず収束していないことへの苛立ちをもちつつ、「それでも原発がいるのですか？」「いっしょに考えましょう、いっしょに歩きましょう！」と沿道歩く人たちや店先に呼びかけました。老若男女、子どもたち一人ひとりが想いおもいに歌ったり花や風船をもちながら、ゆっくりと住宅地を歩きました。忘れてはならない、繰り返してはならないと呟きながら…。

